記者発表資料

平成２８年８月３１日
釜 房 ダ ム 管 理 所

釜房ダムの洪水調節効果（速報）

～台風１０号に伴う出水で釜房ダムが効果を発揮～

台風１０号に伴う降雨により釜房ダム流域では笹谷観測所において２０３mmの雨量が観測され、流域平均で１５３．３mmの雨量が観測されました。
この洪水によりダムへの流入量が最大３０１ｍ３／ｓの洪水が発生しました。
釜房ダムでは最大１９５ｍ３／ｓの流量カットを行い、下流の名取橋水位観測所で河川水位上昇を４４ｃｍ低減させる効果があったものと推測されます。
また、下流域の被害をできるだけ軽減するよう、仙台河川国道事務所と連携しダム操作を行いました。

８月３０日から３１日にかけて、台風１０号の降雨に伴う出水においては、流域平均累加雨量が１５３．３mmに達し、ダムに流れ込む水量が、最大で毎秒３０１立方メートルに達する出水となりました。
釜房ダムでは、この出水をダム貯水池に貯め込むことにより、ダムへの最大流入量　毎秒３０１立方メートルに対しての総放流量が毎秒１０６立方メートルに抑え、下流河川への洪水量を低減することができました。
この洪水量の低減効果は、名取橋水位観測所（仙台市太白区）での河川水位の上昇を約４４ｃｍ低減させました。これにより、名取橋付近の水位は概ね「氾濫注意水位」以下に抑えられました。
また、下流河川（名取川）の水位状況を監視し、被害をできるだけ低減するよう仙台河川国道事務所と密に連絡を取り合うことで、水位のピークを出来るだけおさえたダム操作を実施しました。

※数値については速報値になります。

＜発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会＞

問 い 合 わ せ 先

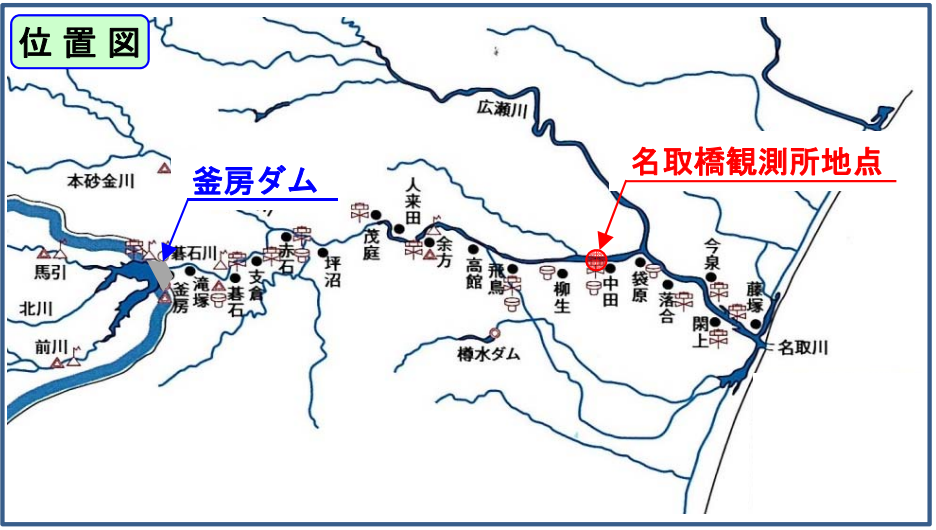
国土交通省　東北地方整備局　釜房ダム管理所
宮城県柴田郡川崎町大字小野字大平山１０－６
電話　０２２４－８４－２１７１（代表）

管理所長　鹿野　安彦　（内線２０１）

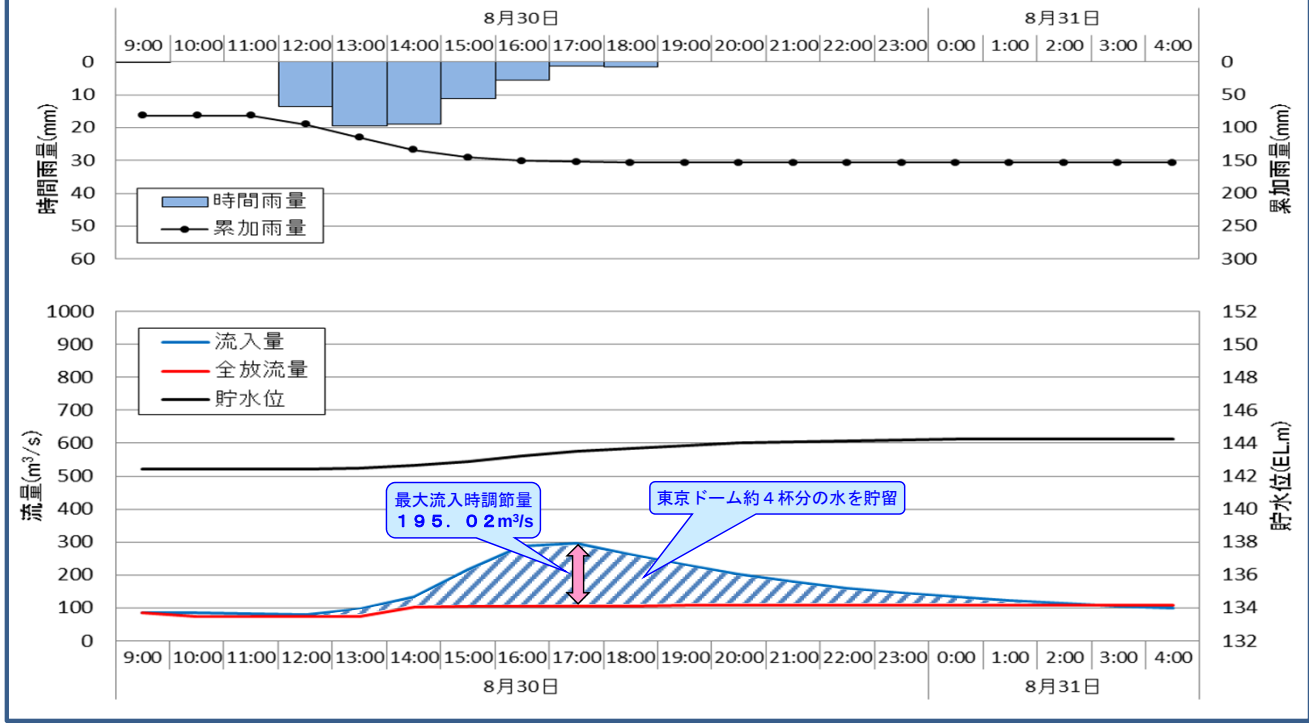
名取川水系　釜房ダムの水位低減効果（平成28年8月30日台風10号に伴う降雨）

〇釜房ダム上流域において、流域平均累加雨量は１５３．３ｍｍ、最大流入量は毎秒３０１m3となる流入量を記録しました。
〇今回の洪水期間中において、４４０万m3（東京ドーム約４杯分）の水を貯留し、下流の洪水被害の軽減を図りました。
〇釜房ダムでは、仙台河川国道事務所と連携し、下流域の被害をできるだけ軽減するためのダム操作を行いました。
〇ダム下流の名取橋観測所地点では、４４ｃｍの水位を低減させる効果があったものと推測されます。

位置図

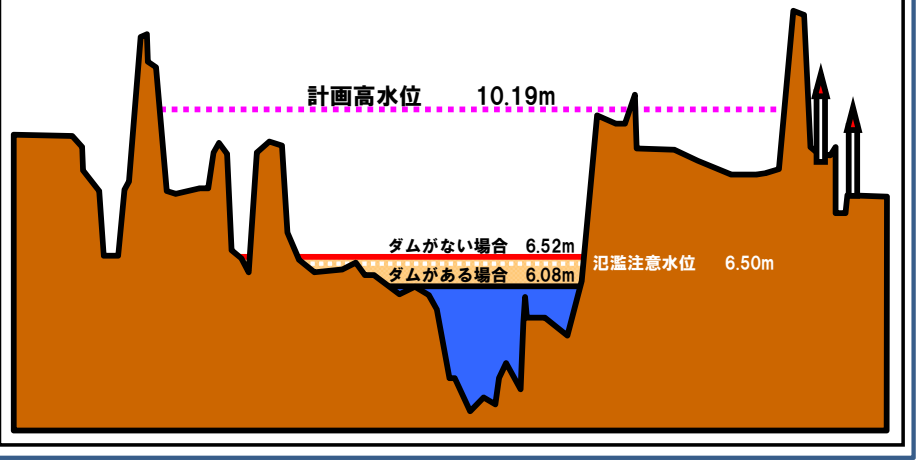


釜房ダム洪水調節状況



河川水位の状況（名取橋観測所）

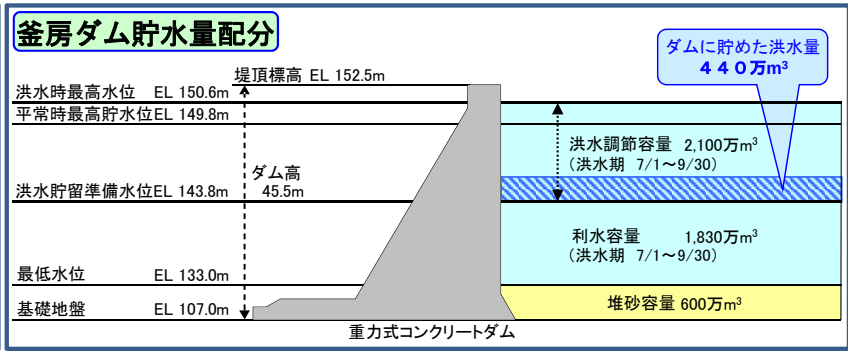
ダム整備前：６．５２ｍ
ダム整備後：６．０８ｍ
→４４ｃｍの水位低減



釜房ダム状況写真（貯水位ピーク時）



釜房ダム貯水量配分



名取川水系　釜房ダムの水位低減効果（平成28年8月30日台風10号に伴う降雨）

釜房ダム貯留状況

防災操作前



８月３０日　貯水位：１４２．４１ｍ

防災操作後



８月３１日　調節時最高貯水位：１４４．２６ｍ
貯め込んだ最大高さ：１．８５ｍ
貯め込んだ全体量：４４０万ｍ３